

◆ 今週のコメント

- ・ 風しんの報告が第18週(4月30日～5月6日)に2例(女性, 40歳代及び50歳代), 第19週に2例(女性, 60歳代及び男性, 30歳代)あります。ワクチン接種歴は不明が3例, なしが1例です。平成20年に全数把握疾患へ変更されてから年間累積報告数は0～1例で推移していました。しかし, 本年はすでに9例と, 非常に多くなっていますので, 今後の動向に御注意ください。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は8.44(346例)で, 第18週(6.29)に比べ増加するとともに, 過去5年平均値を上回っています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.66(68例)で, 第18週(0.78)より増加するとともに, 過去5年平均値を大きく上回っています。年齢階級別では1歳以上で報告があり, 7歳が11例(16.2%)と最も多く, 次いで3歳10例(14.7%)となっており, 3歳から7歳までで52.9%を占めています。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は0.43(29例)で, 第18週(0.72)に引き続き「1」を下回っています。
- ・ 基幹定点からのマイコプラズマ肺炎の報告が, 第17週(4月23日～4月29日)から3週連続して各1例あります。全国でも過去の同時期と比べて高い状態が続いています。

◆ 今週のトピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は1.61(66例)で, 過去5年平均値を上回り, 本年で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 五類: 梅毒(無症状病原体保有者) 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類: 風しん 4例(第18週追加分2例)【1月以降の累積報告数 9例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.43	29
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	8.44	346
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.66	68
	③ 水痘	1.61	66
	④ 突発性発しん	0.24	10
	④ 流行性耳下腺炎	0.24	10
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

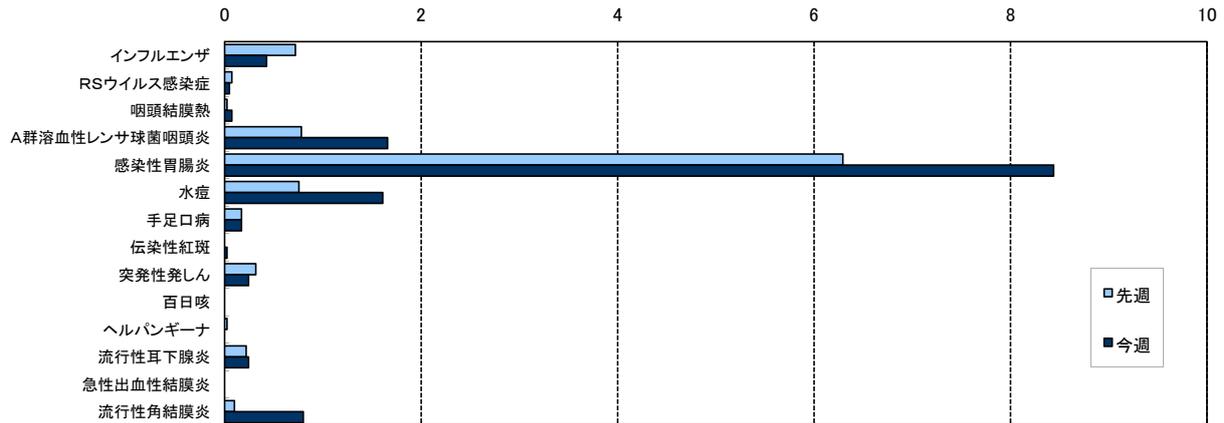
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <水痘>

(注) 京都市のデータは, 平成24年5月17日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

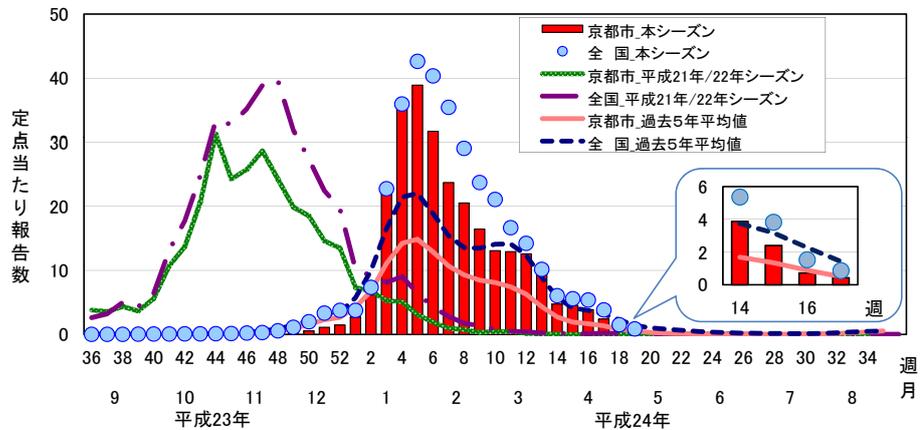
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第19週)と先週(第18週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第15週	310
第16週	263
第17週	163
第18週	49
第19週	29
累積報告数 (第36週以降)	17,447

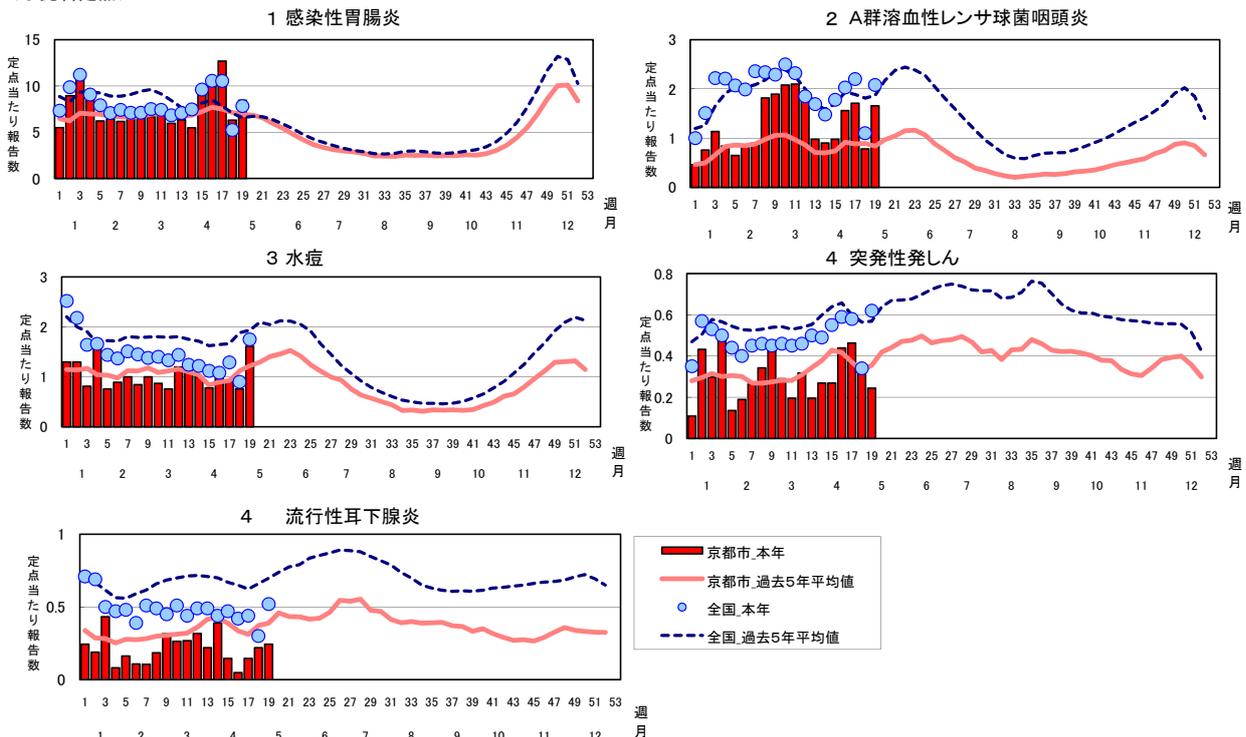


※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23年の平均値です。

※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



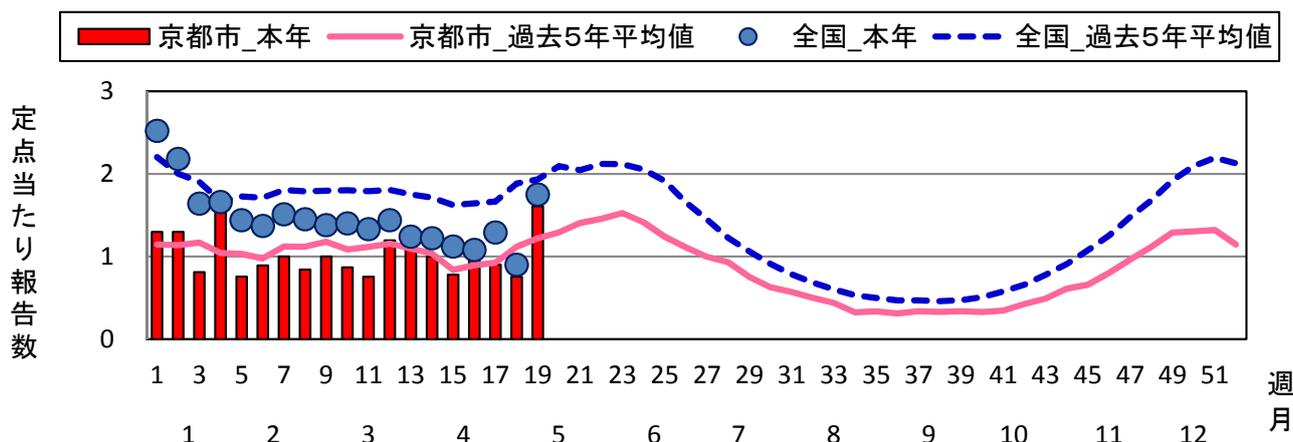
第19週(5月7日～5月13日)トピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は1.61(66例)で、第18週(0.78)に比べ約2倍に急増するとともに、過去5年平均値を上回り、本年で最も多くなっています。水痘の報告数は、例年、5月から6月にかけて増加しますので、今後の動向にご注意ください。

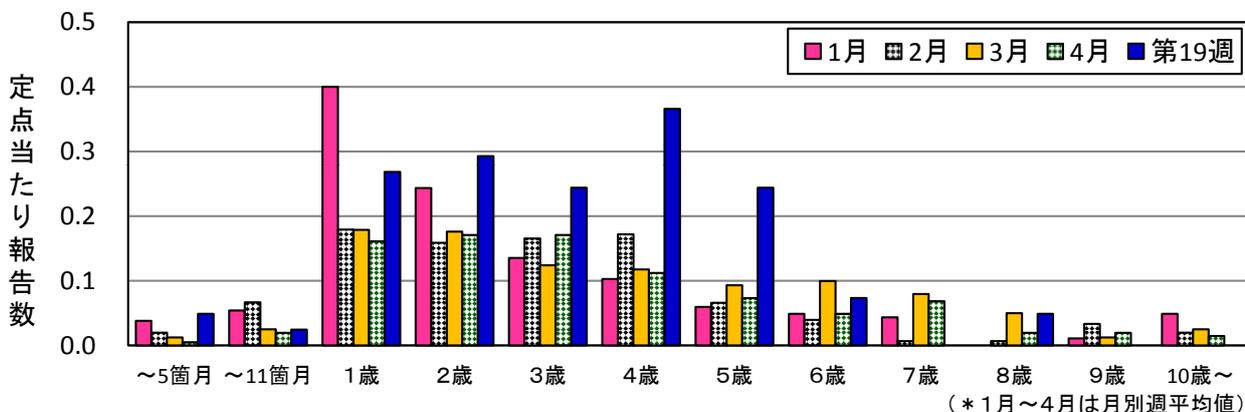
年齢階級別にみると、4歳が15例(22.7%)と最も多く、次いで2歳が12例(18.2%)で、1歳～5歳で87.9%を占めています。1月～4月に比べ、特に4歳、5歳での報告数が多くなっています。

行政区別定点当たり報告数では、南区が7.33と最も多く、次いで右京区、西京区が各2.00、伏見区が1.86となっています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移

